

# 米国大学における地域連携専門人材のコンピテンシー・モデルの検討

—サービス・ラーニング & コミュニティ・エンゲージメント (SLCE) 研究を手掛かりに—

五島敦子(南山大学)

## 1. はじめに

米国高等教育では、近年、地域連携学習に従事する人材を専門職として位置付けるために、その資質・能力をモデル化する研究が進んでいる。その動向は日本のサービス・ラーニング・コーディネーター研究で参照されているものの、教育的支援の方法論に関心が偏り、各モデルの生成経緯及び特徴の分析は不十分である。

そこで、本報告では、米国サービス・ラーニング & コミュニティ・エンゲージメント (SLCE) 研究の成果を手掛かりに、まず、第 2 世代と呼ばれる若年世代の育成に向けてコンピテンシー・モデルが探究された背景を明らかにする。次に、3 つの人材モデルを比較考察し、それぞれの特徴を明らかにする。最後にモデル研究の意義と課題をまとめる。

## 2. 第 2 世代の課題とアイデンティティの模索

2000 年代後半以降、地域連携学習の広がりとともに、平等、社会正義、市民的義務に強い関心を持つ若い世代が育ち、大学で地域連携学習の運営や支援に携わるようになった。しかし、第 2 世代は、大学組織の壁や研究志向のアカデミアとの軋轢に直面し、実践家、研究者、管理者として自らのアイデンティティを形成する方法を模索している。そこで、彼らがプロフェッショナルとして持つべき資質・能力を明らかにする調査研究が進み、大学や大学団体により、コンピテンシー・モデルに基づく専門能力開発プログラムが開始された。

## 3. モデルの比較検討

### (1) バウンダリー・スピニング・モデル

Weerts & Sandmann (2010) は、研究大学で地域連携に関わる多様な人材の指向性をバウンダリー・スピニング理論を援用してモデル化している。X 軸にタスク指向 (技術・実務 VS 社会的・精神的リーダーシップ)、Y 軸に社会的親近感 (大学重視 VS 地域重視) という対立軸を置く

マトリクスを示し、組織の壁を越えて大学と地域を結ぶ 4 者の越境人材 (スパナー) を描出している。

### (2) 予備的コンピテンシー・モデル

Dostilio (2017) は、地域連携人材を「Community Engagement Professional: CEP」と呼び、そのコンピテンシーを 6 領域 (①高等教育の変革を導く、②大学における制度化、③学生の市民学習と成長の促進、④プログラムの管理運営、⑤教員の能力開発と支援、⑥質の高いパートナーシップの構築) に分け、領域毎に 3 つのコア・コンピテンシー (知識、スキルと能力、資質) と重要な関与の枠組みを示している。既存の価値に挑戦し、社会的公正を実現するために、大学組織の中で調整を図りながら社会変革を促す指導力を強調している。

### (3) ホリスティック・フレームワーク

Welch & Plaxton Moore (2018) は、地域連携専門人材を「S-LCE Professional」と呼び、多様な文脈で複数のステークホルダーに継続的かつ専門的な教育支援を提供するハブとしての役割を果たすとしている。学生、地域パートナー、教員、大学管理職という 4 者のステークホルダーに対して、教室、地域社会、大学、学問領域/高等教育という 4 つの文脈において、4 つの観点 (概念枠組み、教員のコンピテンシー、変化の拠点、インパクトの評価) から地域連携を支援または阻害する要因について包括的なメタモデルを示している。

## 4. まとめ

以上のモデル研究は、地域連携に関わる多様な担い手とその相互作用を可視化することで、それぞれの役割と責任の自覚を促し、新しい価値の創造と変革の主体の育成をめざすものである。コンピテンシー・モデルは一元的で固定的ではなく、経験と省察によって不断に再構成する重要性を示している。